

29-14 教育研究評議会議事概要

日時 平成30年2月21日(水) 13:30~14:45
場所 事務局棟2階会議室
出席者 駒田学長
山本, 鶴岡, 尾西, 加納, 尾藤, 富樫, 野崎, 橋本, 西村, 松田, 吉本,
伊藤(正), 安食, 樹神, 鶴原, 山口, (代)山崎, 清水, 伊藤(智), 梅川,
神原, 三宅, 井口
欠席者 堀, 新保, 片山, 緒方
陪席者 服部監事, 山中監事

◎ 前回議事概要の確認

学長から事前に照会した29-13教育研究評議会議事概要(案)について、資料のとおり記録に留めたい旨の報告があり、了承された。

I 審議事項

1. 国立大学法人三重大学学則の一部改正について

尾藤理事から、「資料：審-1」に基づき、医学部医学科における定員増、教養教育機構の名称変更及び高等専門学校を特別聴講学生として受入れを可能とすることに伴う「国立大学法人三重大学学則」の一部改正についての説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

2. 三重大学単位互換制度に関する取扱規程の一部改正について

学務部長から、「資料：審-2」に基づき、平成30年4月より「高等教育コンソーシアムみえ」において単位互換協定の締結を行うことに伴い、高等専門学校を単位互換制度の対象とするための「三重大学単位互換制度に関する取扱規程」の一部改正についての説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

3. 三重大学CAP制について

山本理事から、「資料：審-3」に基づき、平成30年度新生より、全学部・全学科で実施する三重大学CAP制について、履修科目登録単位数の上限を半期26単位(学部により年間52単位)と設定、CAP制の除外科目の設定、履修取消し期間の設定等についての説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

4. その他

なし

II 役員会報告

1. 第29~31回役員会について

企画総務部総務課長から、平成29年度第29~31回役員会について「資料：役-1, 参考資料1~3」に基づき、報告があった。

III その他報告事項

1. 地域創生戦略企画室(仮称)に関する考え方について

学長から、「資料：報-1」に基づき、地域創生戦略企画室を設置する意義、機能、学内での役割と既存組織との関係等についての説明があった。

なお、予算が示達され構成する人員等が確定されしだい、事務の体制も含め報告する旨の付言があった。

また、意見等については尾藤理事が集約することとした。

◇主な意見

- 全学で企画してお金を取るということをイメージしているのか、全学で企画を作ることの狙いがどの辺にあるのか
 - 発生源であり、例えば内閣府、県からのプロジェクトについて応募する時に、「どこが窓口となり」、「どこで考え」、「どういうふうに調整していくか」というシステムが全学的になりつつあるため「深く計画を練る」組織とすること及び、学内においても、各分野の先生方が集まり、良いアイデアがあり、「こういうことをやろう」という時に、学部で出来ることは学部において推進していくこともあるが、全学で支援（サポート）することがあれば一緒に取り組むことができる体制も必要であると考えている。
- 大型のプロジェクトとなると「既存の政策に基づいてやってください」みたいなものが多いと思われることより、企画といいながら、それを実現するために「全学の教員をどういうふうに動員するか」といった話となることに対する懸念がある。
- 本学の中期目標・中期計画においては共同研究の件数を一定数増やすということがあるが、目玉となるようなプロジェクトをやるということでは達成できないのではないかと感じており、本数をいくつかやるという点では学部や現場でコツコツやっていることに對して全学で応援していけるかということが重要である。
- 人文学部でも（プロジェクトではないが）「地域から考える文化と社会」という授業を行っているが、例えばそれをひとつ動かすにも、今の事務の体制、教員の体制では大変であるので、地域創生戦略企画室を作る中で、学部の色々な取り組みを支えてもらえる仕組みが上手く出来上がればありがたいと思う。
- どの学部でも色々な先生が、色々なことをやっていると思うが、それらがきちっと中期目標・中期計画の成果となるような仕組み作りが出来れば、取り組んでいる者にとっても良いことであり、大学全体としても中期目標・中期計画の達成に向けて前進することとなると思う。
- 外から来るものに対して、企画の立案というものが、本当に企画立案であればいいが、その辺りを今後、もう少しバランスを詰めて考えていただかないと、お金を獲得してきたのはいいが、そのお金に振り回され、現場は泣いているというような状況となると困る。
- 学部から（下から）上がってきたものだけではダメであるということも分かるが、そこがないと最終的には共同研究、プロジェクトは増えていかなさうと思うので、そこをよく考えていただきたい。また、現場の視点から言うと「マッチング」であり、相手側から来ても「やれる人」と「やれない人」がいるので、経営関係、歴史関係でたくさん来てもその分野では人文学部としてもマンパワーを割けないということもあるといったことも考えて検討いただきたい。
 - 今、地域創生戦略企画室を作る場合に「何かするの?」と言われたときに「何も無い」ということでは困るので、現在動いている「共同研究スタートアップ経費に関すること」、「地域拠点プロジェクト等」少しでも支援（サポート）できるような事も含めてやろうと考えている。また、外からの大きなプロジェクトが来た時に大学で5本も10本もやっていくことは体力的にも無理であり、多くは学内からのプロジェクトであるということでは当たり前であると思っているので、それをより多くの教員が関心を持ち、参加してもらうことを推進していきたいと考えている。
- 「目玉プロジェクトやってます」みたいなことよりも、学部の先生が色々参加し、色々な分野で、色々なプロジェクトがあって全体として地域で貢献するということを強くする仕組みとしていただきたい。
 - 両方ともバランスの問題であると考えている。
 - 地域貢献のプロジェクトをやることは地域にとっては良いことだとは思いますが、それによって学部の研究力、教育力が上がる、そして先生達の研究力が上がっていくことの方が大事であり、そうでないと将来5年10年経った時に息切れしては困るので、学部の力のレベルアップがあってこそ共同研究、地域貢献が出来るということであるのでそれを少しでも深化できるような機能を持つと良いと考えている。

2. 事務組織の再編について

尾藤理事から、「資料：報－2」に基づき、平成30年4月からの「学務部教養教育機構チーム」、「施設部施設管理チーム」、「医学・病院管理部医事課」の事務組織再編についての説明があった。

また、地域創生戦略企画室及び地域拠点サテライトの事務の充実を図るための検討をしている旨の付言があった。

3. 授業料免除制度について

野崎副学長から、「資料：報－3」に基づき、授業料免除予算について前年度より多く確保できた旨の報告のほか、免除予算の算定方法についての説明があった。

4. COC+に係る報告

富樫副学長から、「資料：報－4」平成29年度第7回地域創発部門会議における検討状況等についての報告があった。

5. 三重大学におけるインターンシップの取組強化について（第3四半期報告）

野崎副学長から、「資料：報－5」に基づき、三重大学におけるインターンシップの取組強化についての第3四半期（10－12月期）の活動等についての報告があった。

6. 学生支援サミット2017提言への回答について

野崎副学長から、「資料：報－6」に基づき、学生支援サミット2017からの3つの提言への回答についての説明があった。

7. 平成29年度三重大学学内企業説明会について

野崎副学長から、「資料：報－7」に基づき、平成30年3月5日から3月8日の4日間開催する平成29年度三重大学学内企業説明会についての報告があった。

8. 平成29年度三重大学における研究に関する研修会について

橋本副学長から、「資料：報－8」に基づき、平成30年2月27日、3月2日の両日で開催する平成29年度三重大学における研究に関する研修会についての報告があった。

9. 個人情報保護に関するeラーニングの実施について

尾藤理事から、「資料：報－9」に基づき、個人情報保護に関するeラーニングの実施について本学教職員を対象とし、平成30年2月21日から3月31日まで三重大学Moodle2により実施する旨の報告があった。

10. 平成30年度概算要求事項について

財務課長から、「資料：報－10」に基づき、機能強化経費の2月中での伝達（文部科学省から）が困難である状況に伴う平成30年度予算編成の方針についての説明があった。

11. その他

(1) 入試業務について

山本理事から、平成30年2月25日、26日（前期日程）、3月12日（後期日程）個別試験の実施への協力依頼のほか、入試の実施、合否判定については慎重を期して当たっていただきたい旨の注意喚起があった。

また、その後の学生の入校手続きについても的確に進めていただきたい旨の付言があった。

(2) 会計検査院からの指摘事項について

財務部長から、会計検査院からの指摘事項についての説明があり、その後の対応状況についてホームページの契約情報において公表する旨の報告があった。

以 上